



令和2年1月9日発行 今年もよろしくお祈りします！

# 高宮だより

安来市立第二中学校学校通信

第9号

## 「一人一人の人権が尊重される社会の実現」を目指して ～二中ではこんな人権教育を行っています～

二中では、道徳、学級活動等で3年間を通じていじめ問題について考え、生徒会活動でいじめ撲滅運動に取り組んでいます。また、いじめ問題のほかの多くの人権課題についても、学年ごとに重点課題を決めて人権教育を進め、差別を見抜き、差別をなくす実践力を育てることに力を入れています。2学期の取り組みを紹介いたします。

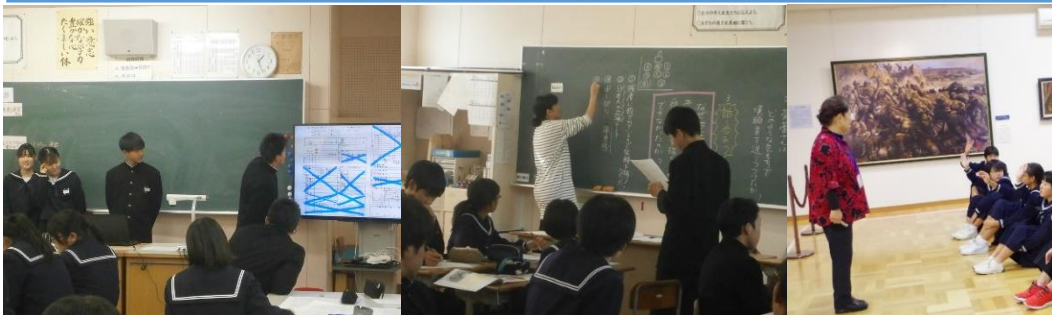
### 11月17日(日) 人権教育参観日公開授業

#### 3年生学級活動「統一応募用紙から考える」

就職希望者に、本人の能力や人間性とは無関係な本籍地、家族関係等を書かせ、それによって就職差別が行われていたという事実を知るとともに、面接試験等で深く考えずに答えたことが、他の人に対する差別につながる場合があることを学び、就職差別を自分自身の問題としてとらえることができました。

仕事をするうえで、関係のないことを書かされる。例えば親や自分の学歴、各教科の評定など・・・を書かされる。面接で聞かれる。あってはならないことだと思います。それを基にして、今すぐ簡単な用紙になってはいますが、今も少し「人権」に反するものもあるのでは・・・?と思います。人権問題については、これからも一人一人が重たいものとして考えていかないとけない問題だと思います。そうしないと今のものから進歩せず、苦しい思いをする人が後を絶たないと思います。

(3年1組 山本芽依さん)



#### 2年生道徳「平和について、加納莞菴さんの行動から考えよう」

2年生は、「赦(ゆる)し難きを赦す」という加納莞菴さんの生き方について書かれた教材で道徳の授業を行いました。その後、11月20日(水)に加納美術館を訪問し、加納莞菴さんの娘である加納佳世子さんのお話を伺って、考えを深めました。

莞菴さんの絵の中で一番気に入ったのは戦争の絵です。すごくリアルで迫力があってすごかったです。あの絵の中で、私たちとあまり変わらない年齢の子が3人踏みつぶされたりしていました。戦争に行くと、年齢とかに関係なく殺されてしまうんだなと思いました。他にももうすぐ死にそうな人もいたり、遺骨をもって叫んでいる人もいました。私は「もう戦争はやめよう」と言っていると思います。

キノノ大統領は、自分の子どもと奥さんが日本人に殺されているのに許していました。すごくつらかったと思うのに。だから「赦し難きを赦す」という名言が生まれたのだと思います。

加納佳世子さんが最初に言われたように、莞菴さんのことを次の世代に伝えていけたらいいなと思います。

(2年 野口菜々さん) \*文章の前後を省略しました。

## 1年生 総合的な学習の時間「高齢者の方が、暮らしやすい安来を考えよう」

福祉体験を通じて考えたことを話し合ってもらいました。一部を紹介します。  
○私たちのような若い人、元気な人が福祉に関心を持ち、考えていくことが大切だと思いました。  
○高齢者とのかかわりを増やす(コミュニケーションをとる)。  
○お年寄りの気持ちになって行動すればよいと思います。



### 12月9日(月)～13日(金) 二中人権週間の取組

法務省人権擁護機関が定める「第71回人権週間」に合わせて、「二中人権週間」を設け、次の3つの取組を行いました。

(1) 校内放送：島根県及び全国人権作文コンクールの4つの入賞作品を、放送委員が一日に一作品朗読をしました。「うざい」という言葉、「良い学校って?」という作品は「いじめ」について、「私の父」は「障がい者に対する差別」について、「私を生きる」は「性的少数者に対する差別」について書かれた作文でした。

#### 「良い学校って?」を聞いて 2年 伊藤杏夕花さん

この作文を書いた人が言っていたように、いじめをなくす努力をしている学校はとて良いと思いました。二中のいじめ撲滅運動は、私はイマイチ関心がなかったです。でも、今回の人権週間で、二中がやっている運動はとてすごいことだなあと、それと同時に関心もわいてきました。私は今、二年生だから、来年もずっといじめ撲滅運動を続けていきたいなと思いました。今、いじめで苦しんでいる人に少しでも寄り添ってあげられるような人間になりたいです。

#### 「私を生きる」を聞いて 3年2組 牧野友香さん

性格の違いは個性だといわれるのに、身体と心の性が違っているのはおかしいことという認識をされるのは、本人にとってとてもつらいことなんだろうな、と思いました。確かに今は人を差別することはいけないことだという認識が、世界に広がりつつあると思うけれど、まだ差別は残っているように感じます。だから、一人一人がまず自分と他人の違いを受け入れるようにして、少しずつでも差別を減らしていく、しっかりとした意識を持つことが大切だと思います。



(2) いじめについての道徳の授業を実施：各学年でNHKfor School「いじめをノックアウト」を活用した授業を実施しました。「その「いじり」大丈夫?」というテーマで学習した3年生の意見・感想を紹介します。

話しているときなど、自分が言ってしまった言葉で相手が嫌な気持ちになったかまではわからないので、自分から相手の嫌な気持ちになるようなことを言わないように気を付けるといいと思いました。

(3年2組 須山 幸さん)

「いじる」や「いじられる」ことは、「いじめる」や「いじめられる」と紙一重だと思いました。相手によっては「いやだなあ」と思ったりする人もいるから気を付けたいです。その場で「いじる」ことで傷つく人もいます、言いたくても言えなかったりするから、そのことに気づくことができるようになります。

(3年1組 福田奈々子さん)

(3) 人権宣言づくり：全校生徒が「私の人権宣言」を書き、校内に掲示しました。各学年の優秀作品を紹介します。

1年生「思いやりをもって、どんなときにも“笑顔”を忘れない」(西村香音さん)

2年生「噂を信じて思い込まない、見た目だけで判断しない」(上野心春さん)

3年生「今の時代をつくれるのは、今を生きている人だけ」(表敷 涼さん)